

第七回

津花之能

えいかののう

おはなし

梅内美華子

狂言

入間川

山本東次郎

仕舞

実盛

友枝昭世

能藤戸

友枝真也



2021年7月18日(日) 午後2時開演/午後1時開場
十四世喜多六平太記念能楽堂
東京都品川区上大崎4-6-9 電話03-3491-8813

※病気その他やむをえない事情で出演者が変更になることがあります。



おはなし 梅内美華子

狂言 入間川 シテ大名 山本東次郎

アド・太郎冠者 山本凜太郎
アド・入間の何某 山本泰太郎

仕舞 実盛 友枝昭世

休憩

後シテ 漁夫の母 友枝真也
前シテ 漁夫の盃

能 藤戸 ワキ 佐々木盛綱 宝生欣哉

ワキ連 従者 大日方寛
ワキ連 従者 則久英志

間狂言・盛綱の下人 山本泰太郎

後見 狩野了一
佐々木多門

地謡 大島輝久 長島茂
内田成信 香川靖嗣
友枝雄人 友枝昭世
金子敬一郎 中村邦生

大鼓 柿原光博 大鼓 林雄一郎
小鼓 鶴澤洋太郎 笛 一噌隆之

終了予定 五時頃



友枝 ともえだ しんや 真也

1969年東京生まれ。上智大学法学部法律学科卒業。故友枝喜久夫の孫。喜多流十五世宗家故喜多実入門、友枝昭世に師事。1972年仕舞「月宮殿」にて初舞台。1984年「経政」にて初シテ、2004年「猩々乱」、2008年「道成寺」、2011年「石橋(赤獅子)」を抜く。「洩花之能」主宰。2014年重要無形文化財総合指定。



梅内 umei みかこ 美華子

1970年青森県生まれ。歌人。馬場あき子に師事、歌誌「かりん」編集委員。同志社大学文学部卒業。1991年角川短歌賞、2001年「若月祭(みかづきさい)」で現代短歌新人賞、2012年「エクウス」で芸術選奨文部科学大臣新人賞、葛原妙子賞。短歌研究賞。2016年青森県文化賞。現代歌人協会理事。歌集歌書に「真珠層」「現代歌枕 歌が生まれる場所」「日本の美しい言葉辞典」等。



山本 山本 ともたろう 東次郎

1937年東京生まれ。三世山本東次郎の長男。1961年に國學院大學日本文学科卒業。1942年に山本会「痿痺」のシテで初舞台。1952年「三番三」、1958年「釣狐」、1971年「花子」を抜く。1972年に「獅子舞」を復曲。四世山本東次郎を襲名。1992年芸術選奨文部大臣賞。1994年親世寿夫記念法政大学能楽賞。1998年に紫綬褒章。他受賞多数。2012年重要無形文化財各個認定(人間国宝)。日本芸術院会員。

あらすじ

入間川(いるまがわ)

東国の大名が太郎冠者を連れて都から故郷に帰る途中、大きな川に行き当たります。通りかかった男に渡瀬を問うと「この川は入間川で川底は深く渡れない」との答え。しかし大名は男が「入間様(いるまよう)」で答えたものと早合点をして、そのまま川を渡り始めてしまいます。「入間様」とは「逆さ言葉」の言葉遊びで物事を反対に言い表します。さて言葉遊びの混乱の末の結末は…。

藤戸(ふじと)

源平合戦のとき、備前の国児島への先陣の功を望むあまり佐々木盛綱に理不尽に殺されてしまった漁師とその母の悲劇です。先陣の恩賞に賜った児島に入府するという晴れがましい日に母が現れる場面から始まり、子を奪われた母の悲憤を描いた前半、そして殺された漁師本人の霊が現れて恨みを晴らそうとする後半という構成は見入る人の集中力を途切れさせません。また前シテ・ワキ・後シテとそれぞれの立場からの感情の吐露がこの曲に独特な緊張感を生み出しています。

■予約開始

2021年5月17日(月)10:00am~

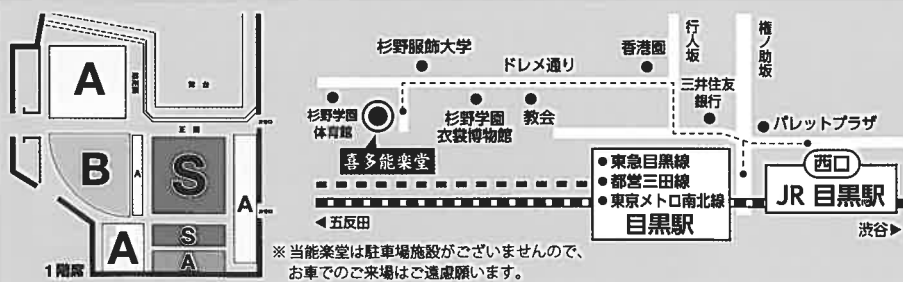
■チケットのご案内

- S席 8000円
- A席 7000円
- B席 6000円
- 二階自由席 4000円

学生の方、中学生以下の方を御同伴の方には割引があります。お問い合わせください。
友枝家公式ウェブサイト

「友枝家の能」からもお申込み・お問合せいただけます。
<https://tomoeda-kai.com/>

※公演中止の場合を除き、ご購入後のチケットの払い戻し、変更、再発行はいたしません。
※都または国の条例等により客席数を制限する場合があります。



■お申込み・お問合せ

TEL:03-3491-8813

公益財団法人 十四世六平太記念財団

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

【交通案内】

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分